

韓国ドラマ！

愛と知性の10大男優

Kang Hibong
康熙奉

なぜ人の心をつかむのか

パク・ソジュン ヒョンビン コン・ユ etc...

世界屈指のエンタメコンテンツで輝く

トップ男優10名と

魅惑の若手イケメンを

徹底解説。

韓国ドラマ！
愛と知性の10大男優

康熙奉

星海社

232



SEIKAISHA
SHINSHO

第1章

素晴らしき男優の肖像

9

1 韓国男優の特徴 10

2 彼らはこのように育っていく 13

3 大学の演劇関連学科の卒業者が大半 16

4 厳しい兵役の現実を乗り越えて 19

5 韓国ドラマはここが面白い 21

6 スマートで知的な俳優像 28

第2章 見事な韓国男優のビッグ3！ 10大男優①

33

話題作『梨泰院クラス』のパク・ソジユン 34

『愛の不時着』でリアル愛を見せたヒョンビン 50

『トッケビ』のカリスマ俳優「ソン・ユ」 64

第3章 韓ドラを動かす本格派の俳優 10大男優②

79

「ストイックな開拓者」イ・ジユンギ 80

「天性のエンターティナー」チャン・グンソク 94

「感情を自在に操る」キム・スヒョン 108

「骨太の俳優道をひた走る」イ・ミンホ 119

第
4
章

独自の世界を開く個性派俳優 10大男優 ③

131

「ドラマを成功に導く男」ソン・ジユンギ 132

「多芸多才なヒーロー」チ・チャンウク 143

「時代劇のスーパー主人公」チヨン・イル 155

第
5
章

無限の未来に向かう若き才能

165

最終的に選んだ俳優の人数は？ 166

第
6
章

胸キュンのイケメン七人衆

205

「誠実な純粋青年」パク・ボゴム 169

「哀愁の美男子」ナム・ジユヒヨク 182

「優しき怪物」ヨ・ジング 197

「最優秀演技賞の栄誉」イ・ジユノ 206

「演技と歌を両立」ソ・イングク 212

「偉人の血を受け継ぐ」チヨン・ヘイン 218

「最高のナイスガイ」オク・テギヨン 224

「主演作が目白押し」ソン・ガン 233

「彫刻のような顔天才」チャ・ウヌ 239

「キャラを輝かせる」アン・ヒョソプ 245

終わりに ファンがいてこそスターは輝く 252

写真提供／SPORTS KOREA

本書は基本的に書き下ろしですが、専門ウェブメディア『韓ドラマ時代劇.com』に著者が執筆した原稿も生かされています。

1 韓国男優の特徴

身体的な持ち味

韓国の芸能界において、スターはどのようなようにして誕生してくるのか。

最初に取り上げたのが身長である。

たとえば、人気男優を自分なりに10人ピックアップしたと仮定すると、間違いなく、その10人の平均身長は180センチを超えているはずだ。選び方によっては、185センチ近くになる場合もあるかもしれない。

一流のアスリートでなくても、これだけ背が高い。

その理由は明らかだ。

スターになったときに、たまたま背が高かったわけではない。もともと、背が高いという特徴を持った人が、スターが立てる舞台上上がっていきける、と考えたほうがいい。つまり、「高身長」が先なのだ。

究極的に言えば、歌が上手な人や演技が巧みな人は、韓国では数えきれないほど潜在的

にいる。

しかし、それだけでは足りない。さらに、身体的な持ち味がある人がその先の選抜ルートに入っていける、というわけだ。

だからこそ、スターは背が高い人たちがばかりなのである。もっとわかりやすく言えば、高い身長はスターへの必須条件になっている。それに見合った男性たちが韓国ドラマの男性主人公を彩っている。

とはいえ、高い身長だけでは足りない。もう一つ重要なのが声だ。

韓国のテレビを見ると、男性アナウンサーの声質はほとんどが低くて重い。それが、韓国で受け入れられる「望ましい声質」なのだ。堂々たるイメージをかもすためには、声は低くてよく響かなければならない。

その鉄則を多くのスター俳優たちも受け継いでいる。彼らは特別な訓練を経て「低くて響く声」を獲得している。そのため、発声を磨いている。

生まれ持った素質だけで彼らが今の地位を得られているわけではない。「素質＋訓練＋努力」が今の彼らを際立たせているのだ。

注目の1987年生まれ

次に、生まれた年を見てみよう。

今のスター男優を見てみると、1987年生まれや1988年生まれが多い。

特に「1987年」という年に注目したい。

この年は韓国現代史で特別に重要な年になっている。それは、韓国社会を重く苦しめていた軍事政権が終わった年を示している。

なぜそれが終わったかという点、韓国全土を巻き込んで激しいデモが吹き荒れた「民主化抗争」が勝利したからである。

それによって、韓国は完全に民主化されるようになった。ここで重要なのは、民主化の勝利によって言論・表現の自由が保障されて韓国は後のエンタメ大国への道を歩み始めた、ということだ。

そういう意味で、1987年生まれは「民主化の申し子」とも呼べる。

そんな彼らが今や韓国ドラマの華々しい主役になっている。本当に象徴的な現象だと言えることができる。

2 彼らはこのように育っていく

男女の育てられ方

今度は、男優たちが育っていく生活環境について考えてみよう。

韓国の男子は母親から舐める^なように可愛がられる。

わかりやすく言えば、男の子と女の子は育てられ方に違いがあって、男の子は母親から過度な母性愛を受ける傾向が強い。

その結果、どうなるか。

優しく情愛深く育つが、依存心が強く、意思決定に曖昧さが残る。

韓国ドラマを見ていて、たいていの男性が付き合っている女性に言い負けているが、それは韓国社会における男女の育てられ方に起因している部分が大きい。女の子は、母親から二の次にされる悔しさをバネに^{たくま}逞しく育つのかもしれない。

この場合、あくまでも傾向の話をしているわけで、誰もがそのように育つわけではないのだが……。

一方で、男女に共通する育てられ方として強調したいのが儒教だ。

韓国には今も儒教的な価値観が色濃く残っている。

それも当然かもしれない。生々しい歴史が韓国社会を広く覆おおっているのだから。

儒教的な価値観

朝鮮半島の高麗時代コリョは仏教が国教だった。それゆえ、仏教的な平等思想が当時の人々に様々な恩恵をもたらしていた。

しかし、高麗王朝を倒して1392年に建国された朝鮮王朝は仏教を否定して排斥はいせきし、儒教思想を生活の根幹すに据えた。

儒教には身分的な格差を認める思想がある。それゆえ、朝鮮王朝は厳格な身分制度を採用し、人は生まれながら不平等になった。特に、男尊女卑だんそんじよひが顕著けんちやだった。女性には親の資産を相続する権利もなければ、再婚する自由もなかった。

だからといって、女性が弱かったかと言うと、決してそうではなかった。男性以上に有能で生活力があつた女性も多かった。それもすべて儒教が朝鮮王朝を仕切っていた時代の話である。

しかし、1910年に朝鮮王朝が滅亡した後も、人々の倫理観や価値観に儒教は影響を及ぼしていた。

そうやって現代に至ったが、今の韓国で儒教的な価値観というと、その最たるものは「孝」である。特に、親孝行が最高度の美德となっている。

そういう風潮の中で母親に舐めるように可愛がられた男の子は成長しても、両親を大事にする。あるいは、年長者を敬う。そういう精神を表に出せないと、政治家でも芸能人でも、韓国社会では広い支持を集められない。

さらに言うと、スターは「お高くとまっている」と思われたら、その瞬間に人気を失う。ファンの身近にいてくれないと、大衆は嫌気がさしてしまうのだ。だからこそ、スターは常にファンサービスに徹して、支えてくれる人たちに感謝を述べている。

芸能人がバラエティ番組に積極的に出て、自分の私生活まであからさまに語るのも、「いかに自分がファンの身近にいるか」ということを態度で示す必要があるからだ。

3 大学の演劇関連学科の卒業者が大半

演劇の名門大学

韓国の俳優たちの略歴を見ると、多くの共通点を見つけていることができる。大学の演劇・映像専門学科を卒業している俳優が圧倒的に多いのだ。

これは韓国で俳優として成功するための方法論を如実に物語っている。とはいえ、俳優という職業の場合、特別に学歴が必要なわけではない。それでも、韓国では学歴を重視する伝統が社会に根づいていて、その風潮がはつきりと俳優の世界にも及んでいる。

そのことは、現実を直視すると、事情がよく見えてくる。なにしろ、演劇・映像・放送に関する専門学部（あるいは学科）を設置する大学が40校ほどあるのだ。この数は、人口五千万人の国としては驚くほど多い。それだけ、芸能分野も学術的に体系化されている。

その中に自分自身を組み込まなくては、俳優になることも難しい。したがって、俳優になりたければ、まずは大学受験をめざすのである。

今は芸能専門の学部は非常に人気があって、特に名門となると難関校となっている。そ

れでも、無事に難関を突破できれば大学で中身の濃い専門指導が受けられる。

そして、俳優を数多く輩出する名門大学としてよく知られるのは、東国大学^{トングク}、中央大^{チュンアン}学、漢陽大学^{ハンヤン}、檀国大学^{タンクク}、ソウル芸術大学の5つ。すべて私立である。

この中でいくつかの大学の講義の内容を見てみよう。

各大学の特徴

伝統の中央大学の演劇学科では、理論から実技までを体系的に学ぶ。1・2年時に演劇概論、韓国演劇史、演劇文献研究などの講義を受け、話術や舞台技術などの実技も磨いていく。3・4年時には、作品制作実習、演出実習、演劇制作などの講義を受ける。演技者はもちろん、演出家の立場からも作品制作を学ぶ。本当にカリキュラムが充実している。次に、これまでの韓国芸能界で最も多くの著名な俳優を送り出してきた東国大学の演劇学科の特徴は、専門性にこだわった英才教育に力を入れていることである。

教授陣は海外で演劇に関する修士号や博士号を取得した演劇研究者が多く、学生には演劇・映画・テレビドラマの演技者養成だけでなく、舞台美術・照明・機材の操作にも精通する技術を習得させている。

さらに、最近は素晴らしい俳優をたくさん卒業させている漢陽大学の演劇映画学科の特徴は、芸能人のための入学枠が設定されているということだ。この制度を生かして入学した著名な俳優も多い。

この場合の受験は面接だけ。ただし、過去に出演した映画・ドラマの作品本数や演じた役の重要度が厳密に審査されて、わずか数名だけが合格できるようになっている。

そうした芸能人枠で入っても、仕事の都合で卒業できない人も多いというから、俳優と大学を両立するのは難しいと言わざるを得ない。

以上、3つの大学のことを紹介したが、世界で最高レベルの大学進学率を持っている韓国において芸能の世界をめざそうとすれば、専門的で体系的な学問を徹底的に学べる環境が揃っている。そうした中で、スターは頭角を現してくるのである。

また、韓国で俳優をめざす人が演劇関連学科に進むのは、専門的に演技を学ぶことはもちろんだが、同時に、芸能界の学閥がくぼつシステムに加わりたいという狙いもある。

同じ大学の先輩が俳優として力があれば、後輩にもメリットが大きいのだ。そういう意味で、俳優として成功するために学閥を利用したいという思惑おもわくも見えている。

4 厳しい兵役の現実を乗り越えて

兵役の現状

韓国の男子は成人後に一部の例外を除いて誰でも兵役の義務を負う。この「一部の例外」というのは、オリンピックの3位以内、アジア大会の金メダリスト、権威ある国内・海外の芸術系のコンクールで優勝あるいは2位以内、などである。

しかし、大衆文化（音楽・映画・ドラマ）ではどんなに成功しても兵役免除制度がないので、スターといえども30歳までに兵役に入らなければならなかった。

さらに、現在は兵役延期規定が厳しくなって、28歳までに兵役のために入隊しなければならぬ。

そういう意味でも、早くから俳優として成功した若者たちは、兵役問題を乗り越えていかなければ、その先の俳優活動の展望も見えてこない。

本書で最初に取り上げた10人の男優は、すべて20代のときに兵役に入っている。

とにかく、兵役は韓国の成人男子を憂鬱ゆううつにさせる不可避の国民的義務であり、それが彼

らの人生にとっても大きな影響を及ぼしている。

兵役の経験を生かせるか

かつては「兵役は芸能人の墓場」と言われた時期もあった。芸能界のスターでも、兵役期間中に忘れられてしまい除隊後に人気を大きく落とした、という実例がたくさんあったからだ。

しかし、時代が変わった。兵役期間がかなり短縮されたこと（陸軍なら現在は18カ月）、情報開示によって兵役中の様子が一般の人たちの目に触れるようになったこと、兵役中に作品が公開されて「忘れられる」ことを回避できていること……などが顕著となって、「兵役は芸能人の墓場」ではなくなっているというのが最近の傾向である。

また、兵役を通して強く逞しいイメージを付加する効果を得られた芸能人も少なくなく、軍隊での経験をプラスに転化できる事例が多くなってきたことも、兵役を前向きに捉えられる風潮を生んでいる。

それでも18カ月の空白期間を余儀なくされることは相変わらず厳しい現実であって、まだ入隊していない芸能人にとって不安が募っているのは事実である。

しかし、兵役は韓国の人たちにとって非常にデリケートな問題であり、芸能人がもし兵役に関してマイナスイメージで捉えられたら、人気商売の致命傷にもなりかねない。それだけに、兵役問題でミスをおかさないことが芸能人の鉄則である。

5 韓国ドラマはここが面白い

ドラマの受け手と送り手

韓国ドラマは世界最高水準のエンタメ。

そのことを再認識させてくれたのが、Netflixをはじめとする配信サービスでの世界的な人気だ。有力な韓国ドラマは世界各地のランキングで上位に入り、言葉と文化を超えて韓国ドラマが普遍的に多くの国で楽しまれていくことが明らかになった。

なぜ、韓国ドラマはそれほど面白いのか。

それは、送り手と受け手の二つの側面から分析できる。

まず、韓国の人はドラマが好きである。日常の楽しみの中にドラマが確実に入り込んでいる。その前提となるのが「他人のことに好奇心を燃やす」という国民性がある。

「隣の家の箸の本数まで把握はあくしている」

それが韓国人の習性だという。このように、他人に対する旺盛おうせいな好奇心を巧みに取り入れたドラマは、人々の生活にじかに入り込む有数の娯楽となり、朝から晩までドラマに見入るライフスタイルを作り出している。

結果的に、ドラマを見ている人が圧倒的に多いので、送り手となる制作側の意気が上がり、作り出す環境も整備されている。しかも、優秀な人材が次々とドラマ制作に関わってきて、現場は活況ていを呈している。

このように、ドラマの受け手と送り手が理想的な関係を維持して、結果として面白いドラマが量産される現状を生み出している。

演出家が語る韓国ドラマ

韓国のドラマには、どんな持ち味があるのだろうか。

私は韓国で様々な人たちと韓国ドラマについて語り合ってきたが、とても興味深かった

のが、気鋭の演出家たちと議論を重ねたときだった。

彼らとよく話し合ったのは2005年のことで時間がかなり経っているが、冷静に見てもそのとき演出家が指摘したことと今の状況はほとんど同じなので、韓国ドラマの特徴を端的に物語る実例として当時の座談会の様子をここに再現してみよう。

韓国ドラマの特徴を話してくれたのは、ペク・フンギ（1970年生まれ）、パク・ミヌ（1973年生まれ）、イム・ヒョンジン（1973年生まれ）という3人の演出家だった。みんな男性である。

彼らの声に耳を傾けてみよう。

パク 「最近は芸能界にいる人々の地位が随分と高くなりましたよね。僕らが小さい頃は、俳優になると言ったら随分冷たい目で見られたものだけど……。時代が変わりましたね」

ペク 「何よりも、韓国人はドラマが大好きな国民性ですよね」

イム 「韓国人だけではなく、アジア全体がそういう好みがかなりあると思います。特に、女性はどの国もドラマが好きじゃないですか」

パク 「でも、やっぱり韓国は特別かな。女性は朝からドラマを見て涙を流すのです」

イム 「食堂に行くと、店のアジュンマ（おばさん）たちはドラマばかり見えています。私も勘定を済ませるときにアジュンマから『今いいところだから少し待ってくれ』とよく言われます。それくらいドラマに熱中できることに驚きます」

パク 「韓国のドラマは女性のパワーで成り立っていますからね。ドラマを見ているのも女性なら、シナリオ作家もほとんど女性でしょ」

イム 「制作する人は男性ばかりなのに、それでも男性中心のドラマが出てこない。女性作家を中心に女性の感覚がわかるドラマばかりが作られています」

パク 「男性のシナリオ作家は、史劇（時代劇）に何人かいる程度で、それを除けば思いつかないですね。もともと、女性が主に見るドラマは女性がストーリーを書いたほうが、細かい感性がつかめるんじゃないのかな。どういふ話が女性に受けるのか。そのポイントをはずさないですよ」

イム 「だから恋愛ドラマの全体的な特徴がわかります。偶然の出会いと突発的な結末の繰り返しです」

ペク 「ドラマのストーリーも、人生というのは多くの困難を乗り越えていくもの、とい

うタイプが多いですね」

パク 「男性の主人公の多くはお金持ちの息子。これは女性の理想の対象なのでは……。お金を持っていてハンサムで、まだ20代なのに企画室長をまかされている。その一方で女性主人公は貧しい生い立ちが当たり前です」

イム 「メロドラマには二通りの人間が登場します。すごい金持ちと貧乏な人。極端な生い立ちの2人をくつつけて、様々に対比させるのです。もう一つの特徴は、本人にはあまり能力がないということ。ですから、まわりから助けてもらうのです。常に受動的。でも、そのほうがたくさんストーリーをつくれます。自分ですべて解決してしまったらドラマになりませんからね」

パク 「男性の主人公がお金持ちの室長とか、すごく忙しい職業じゃないですか。恋愛をする時間がどこにあるのかと聞きたいくらいです。でも、毎日彼女を待ち構えていて、家まで送り届ける。そんな時間はないはずですよ……」

ペク 「ドラマのシナリオ作家が女性ばかりなのは、男性のプライドが関係しているのではないですか。テレビドラマをまだ軽く見る風潮があつて、放送局で執筆の仕事をするのは作家として納得がいけないんですよ。自尊心が邪魔するといえ

のかな。作家であれば純粹に文学がやりたいわけでしょう。昔はドラマに携わった作家は、墮落しているとよく言われていました。その一方で、女性は自宅でもできるし結婚してもできる。そういう点でシナリオを書くのに有利なのです」

イム 「男性は放送作家より演出家をやってみたいはずですよ。演出家の場合は総合的にスタッフを動かしていかなければならない。そういう仕事に男性は魅力を感じても、女性はそうではありません」

パク 「女性は確実に男性よりも生命力があるので、忍耐強く書くという仕事にも向いています。放送作家たちは女性たちが占領し、男性が入るすぎがありません。でも、それでいいのかも。純愛物語にしても、男にはあそこまで書けない。これからも韓国の女性作家にどんどんいいドラマを書いてもらいましょう」

このように語られた内容をコンパクトにまとめてみよう。

- 韓国のドラマは女性のパワーで成り立っている。
- ドラマを制作するのは男性ばかりでシナリオを書くのは女性ばかり。

- 恋愛ドラマは偶然の出会いと突発的な結末の繰り返し。
- 男性の主人公はお金持ちの息子で女性主人公は貧しい生い立ちが当たり前。
- 男性は放送作家より演出家をやってみたい。
- 女性は男性より生命力があるので忍耐強く書くという仕事に向いている。

ここで指摘されたことは、ジェンダー的に決めつけている例もあるが、現在にも当てはまることが多い。そういう意味で、韓国ドラマの状況はあまり変わっていない。

このような韓国ドラマにおいて、俳優たちは主に女性が書いたシナリオを通して魅力的な男性主人公を演じ、人気俳優として大きく成長を遂げているのである。

6 スマートで知的な俳優像

俳優のイメージ

韓国の俳優を見ていると、「愛」と「知性」を強く感じる。

この場合の「愛」は男女の間の「LOVE」だけでなく、広く人間同士の情の深さも含んでいる。そういう意味では、「情愛」と言ったほうが適切かもしれない。

もう一つの「知性」とは、「人間に対する深い洞察とっさつ」と呼べるもので、その裏付けが深い学識であることは言うまでもない。

こうして韓国の俳優は「愛」と「知性」を表現する人たちだと規定することができるのだが、そのイメージをはっきり変えた象徴的な人がペ・ヨンジュンであったという。

韓国の大手紙「スポーツソウル」の芸能記者にかつて詳しく話を聞いたとき、キム・ヨンスプ記者（男性）とチェ・ヒョアン記者（女性）が次のように指摘していた。

キム・ヨンスプ「以前の韓国にいなかった新しいタイプの俳優として記憶に残るのがペ・ヨンジュンです。従来の俳優は、チェ・ミンスのような男性的で濃い顔立ちのタイプが多

くて人気があったのですが、ペ・ヨンジュンはそれまでの男優とはまったく違っていました。すっきりしたルックスで、笑顔もソフトで優しい。とても品があるんですよ。彼の出現で、韓国女性が抱く『理想の男性観』が変わったと思います」

チェ・ヒョアン「ペ・ヨンジュンは韓国の女性がもっとも理想とする男性の1人だと思います。最近では韓国の女性も男らしさを強調されるよりも、スマートで知的な男性を好む傾向があります。つまり、強いだけでは駄目なんですよ（笑）。実際、最近の人気男優を見ても、ほとんどが知的でスマートでソフト。その流れを作った元祖がペ・ヨンジュンです」

以上の発言は韓国の男優のイメージの変化を語るときにとっても重要である。

つまりは、チェ・ミンスに代表されるような「家父長」的な男優がかつては人気を得ていたが、ペ・ヨンジュン以降は「スマートで知的」なイメージを持った男優が人気を得るようになったというわけだ。

スターの好感度は時代によって変わってくる。今のスターは「知的」でないと人気を持続できない流れになっている。

運命の人

多くの人に尋ねてみたい。

今まで人生観が一変するほどの衝撃を受けたことが何回あっただろうか、と。

そう自分に問い掛けて、指をたくさん折れる人は幸せに違いない。しかし、現実はなかなか思い出せない、という人が多いのではないだろうか。

けれど、それは特殊なわけではない。「人生観が一変するほどの衝撃」というのは実は誰の心にもあまねく襲いかかってくるものではないのだ。要するに、人は簡単には変わらないし、衝撃はどこにでも転がっているわけではない。

ただし、韓国ドラマの仕事をしていると、衝撃で生活を一変させた人には何人も会ってきた。

「この人に会うために私は今まで生きていたのか、と真剣に思いました」

そう語る人たちの瞳が、なんと生き生きしていたことか。

実際、好きな韓国ドラマを通して「素晴らしい俳優」に出会った人たちは、あこがれの人を情熱的に語ってくれる。

そのあこがれの人は、別世界に導いてくれる「運命の人」であるに違いない。

そんな人が道の先で微笑んでいれば、どの方向に導かれていったとしても、その方向に歩みだすのもワクワクする楽しみがある。

まだ見ぬ風景を探して……。

そこで会える「運命の人」を見つけるのも、韓国ドラマを見る大きな生きがいである。

第2章からは、そんな「運命の人」を順に紹介していこう。

第

2

章

見事な韓国男優の
ビッグ3！

10大男優

①

박서준

현빈

공유

話題作『梨泰院クラス』のパク・ソジユン

成長する力

もし夢で逢えたら、「彼」と何がしたいだろうか。

チ・チャンウクとは楽しい酒を飲みたいし、ソ・イングクならカラオケに行つて男同士でデュエットをしたいし、コン・ユなら眺めがいい砂浜で一緒に海を見ていたい。

そして、パク・ソジユンならば……。

2人で一日中、列車に乗って、見知らぬ街を旅していたい。

ワクワクするような感情の昂^{たか}ぶりが待っているに違いない。

きつと、今まで味わったことがない高揚感に包まれるかもしれない。

そんな夢がさめた後に、改めてパク・ソジユンについて考えてみる。

彼は、自分を掛け算のように伸ばせる俳優だ。パク・ソジユンが演じると、キャラクターのスケールがどんどん大きくなっていく。

しかし、危険な香りもある。掛け算でゼロを掛けてしまうと、それまでの苦労が無駄に

なる。けれど、パク・ソジュンは臆することなく前に飛び出してみる。そこで見えた景色が、彼の戦うすべてのフィールドだ。

演じる世界はまさにそこから始まる。

そんなパク・ソジュンの存在感を強く意識するようになったのが、『花郎ヘファラン』に主演してからだ。

制作されたのは2016年。このドラマは、「イケメン祭り」と呼んでもいいほど出演陣が魅力的な青春群像劇だった。この中で、パク・ソジュンが演じたソヌという主人公は、野性味があつて人を引き付ける魅力があつた。

案の定、ドラマが進むにつれてソヌは固まった枠におさまらないような多様性を見せて、物語を華麗に彩った。

登場人物はパク・ヒョンシクが扮した真興王（チヌンワン）のように名門出身のエリートばかり目立っていたが、ソヌは貧しい村から都に出て成長していく青年だった。こういう役を演じるときのパク・ソジュンはエネルギーに満ち、見ていると本当に頼もしい。そんな人物を主人公として大活躍させるのが『花郎ヘファラン』の面白いところだった。

なお、このドラマのタイトルにある「花郎」とは、古代の新羅（シルラ）時代に実在し

た青少年たちの育成組織を表している。新羅は花郎を通して青少年たちを徹底的に鍛えて、やがては軍事大国にのし上がっていったのだ。

そういう意味で花郎というのは、将来有望な男子を象徴するような言葉なのだが、潜在能力が高いパク・ソジュンもまた、花郎のように成長していった。

格闘技で光る持ち味

パク・ソジュンが次に主役となった『サム、マイウェイ〜恋の一発逆転!〜』では、コ・ドンマンという主人公を演じた。

ドンマンは高校生のとき、オリンピックの出場も有望視されていたテコンドーの選手だった。

しかし、一番重要な試合で家族の負債問題のために全力を發揮できず、オリンピックの出場が叶わなかった。この出来事がトラウマになったドンマンは、好青年なのに何をやってもうまくいかず、世間的にはダメな男と見られていた。

そんな彼の幼なじみが、キム・ジウォンが演じるチェ・エラだ。彼女はアナウンサーを目指して努力していたが、結局は落ちこぼれていた。性格は強気で、何でも口にするタイ



プ。ドンマンにもきつく当たってしまう。

それでもドンマンは彼女をよく理解しており、2人は喧嘩しながらお互いにわかりあっていた。

やがて、ドンマンには大きな目標が出てきた。彼は格闘技への夢を捨てきれず、ついに選手としてチャレンジを始めた。エラも諦めかけたチャンスにもう一度果敢かかんにトライする。そうやってお互いに努力する中で、いがみ合っていた2人の関係が、友情から愛情へと変わっていく。

このように、若い2人の成長の過程をたつぷりと楽しめるのが『サム、マイウェイ』恋の一発逆転！』というドラマだった。

それにしても、格闘技の試合に出場するドンマンの姿がサマになっていた。立っている姿も美しいし、激しく戦う場面も迫力満点だ。何よりも、格闘技の強い選手を演じるときに風格があった。

絵になるカップル

韓国ドラマをジャンルで見ると、ラブコメが一大勢力となっている。その中でも傑作と

パク・ソジュン

박서준

パク・ソジュンは、自分を掛け算のように伸ばせる俳優だ。彼が演じると、キャラクターのスケールがどんどん大きくなっていく。そこで見えた景色が、彼の戦うすべてのフィールドだ。

生年
月日 1988年12月16日生まれ

身長 185cm

学歴 ソウル芸術大学演技科

主な
出演作

『ドリームハイ2』（ドラマ／2012）
『温かい一言』（ドラマ／2013～2014年）
『魔女の恋愛』（ドラマ／2014年）
『彼女はキレイだった』（ドラマ／2015年）
『ビューティー・インサイド』（映画／2015年）
『花郎 〈ファラン〉』（ドラマ／2016～2017年）
『サム、マイウェイ～恋の一発逆転!～』（ドラマ／2017年）
『キム秘書はいったい、なぜ?』（ドラマ／2018年）
『パラサイト 半地下の家族』（映画／2019年）
『ディヴァイン・フューリー／使者』（映画／2019年）
『梨泰院クラス』（ドラマ／2020年）

して抜群の人気を誇っているのが、パク・ソジユンとパク・ミニョンが共演した『キム秘書はいつたい、なぜ?』である。

このドラマでパク・ソジユンが演じるのは、ユミョン・グループ副会長のイ・ヨンジュンだ。彼は「完璧な人間しか愛さない」と断言し、何よりも一番自分が好きだというナルシストであった。

そんな極端な人物を主人公にした『キム秘書はいつたい、なぜ?』は、ヨンジュンに秘書として9年間も仕えたキム・ミソ（パク・ミニョン）が、突然退職を願い出るところから始まる。

そのことにショックを受けるヨンジュン。完璧な男だったはずなのに、キム・ミソの退職依頼に動揺してどんどん崩れていく。

ドラマ的には、そのギャップが大いに笑えるのだが……。

実際、この『キム秘書はいつたい、なぜ?』では、ヨンジュンが随所に見せる「落差」がストーリーのツボになっている。

そもそも、韓国ドラマの大きな特徴は何だろうか。

それは、「落差」を巧みに利用するということだ。

たとえば、設定されるキャラクターの見た目と現実的な中身がまるで違うという大きなギャップが、ドラマ的な面白さを生み出していることが多い。

そういう意味で、『キム秘書はいつたい、なぜ?』は典型的な落差ドラマである。

まず、このドラマは冒頭からパク・ソジユンが演じるヨンジユンが、どれくらい完璧な男であるかを徹底的に見せていく。

財閥企業の副会長で、ルックスは申し分がなく、いくつもの外国語をネイティブのように話し、会議ではプレゼンターが示す数字の間違いを細かいほどに指摘する。まるで、頭の中に超高速のコンピュータを持っているかのように……。

仕事が抜群にできるし、非の打ち所がない。それが、パク・ソジユンが扮するヨンジユンという男なのだ。

しかし、これほどの男が、キム秘書が急に辞めると言い出した途端とたんに激変する。まるで、迷える子羊になってしまうのだ。

ここから完璧なはずのヨンジユンの落差が見えてくる。

ヨンジユンは、まるで奈落ならくの底に落ちるかのようにボロを出していく。

そこがまた見ている人が気持ちよく笑えるところで、パク・ソジユンが完璧なはずのヨ

ンジュンの落差を次々に見せることで、このドラマはラブコメの傑作としてどんどん昇華していった。

それにしても、パク・ソジュンが扮するヨンジュンとパク・ミニョンが演じるキム秘書は、誰が見てもウツトリするような「絵になるカップル」だ。

スペイン大使館で行なわれたパーティに手を組んで入場してきたときの2人……まさに、天下の美男美女という感じでサマになっていた。

こういうビジュアルを場面としてドラマに織り込めるのも、パク・ソジュンとパク・ミニョンの大きな持ち味と言えるだろう。

とはいえ、パク・ソジュンは本来の自分自身について「客観的で、冷静で、ときには悲観的なこともあります」と分析しながら、『キム秘書はいつたい、なぜ?』の撮影に入ると、戸惑いが大きかったと語っている。それはなぜなのか。

「とてもキザな役を演じたので、撮影が始まったばかりのころは私も耐えるのが辛いと思うほどでした。なぜなら、ヨンジュンはナルシストで、あまりに自己愛が強い男だったからです」

ヨンジュンの役は素の自分とあまりに違いすぎたのだ。

しかし、それは俳優にとってよくあることだ。むしろ、自分と違う役を演じたほうが興味深いだろう。

そのことにパク・ソジユンも気づいた。

「今回演じたヨンジュンは、本来の私とは正反対の人間だと思います。でも、自分を愛そうと思ったら、そのまま愛することができるんですよ。結局、ドラマを通して自分が変わったみたいです」

こう語るほどヨンジュンというキャラクターはパク・ソジユン本人に強い影響を与えた。それは、俳優としての多様性を広げる効果も生んだ。変化は確実にパク・ソジユンに訪れたのだ。

魂を揺さぶられるドラマ

2020年1月31日から韓国JTBCで放送された『梨泰院（イテウォン）クラス』は、社会現象を巻き起こすほどの注目を集めた。

ドラマが成功する原動力になっていたのは、パク・ソジユンが扮するパク・セロイのキャラクターだ。彼は絶対に妥協できない頑固者だ。がんこもの

話はパク・セロイが高校生のときにさかのぼる。

彼は、転校した初日にひどいじめを目撃する。いじめていたのは外食産業の巨大企業
チャンガ・グループの御曹司^{おんせうし}で、先生も見ないふりだった。それをいいことに、御曹司の
いじめはひどくなる一方だった。

見かねたパク・セロイが必死に止めたのだが、相手が聞こうとしなかったので手を出し
てしまった。

御曹司の父親であるチャン・デヒ会長が立場を利用して校長室にやってきて、パク・セ
ロイに土下座を要求した。彼が会長を務めるチャンガ・グループにはパク・セロイの父親
が勤務していて、その父親も同席させられた。

そのときパク・セロイはどうしたか。彼が土下座をしていれば退学^{まぬか}は免れたし、父の仕
事も安泰だった。

しかし、パク・セロイはあえて土下座をせず、すべてを失う羽目^{はめ}になった。本当に不器
用な男なのだ。

とはいえ、強い信念を持っていた。間違った妥協をしない。そういったパク・セロイの
生き方が、『梨泰院クラス』の全編を貫いている。

パク・セロイには不運が続く。最愛の父が殺され、自分も刑務所にぶち込まれる。すべては御曹司と父親のせいだった。

そんな相手に復讐を誓うパク・セロイ。そして、自分が大金持ちになってみせるという野望を持つ。その手段のために、やがてパク・セロイは梨泰院（イテウォン）で勝負をかけることになる。

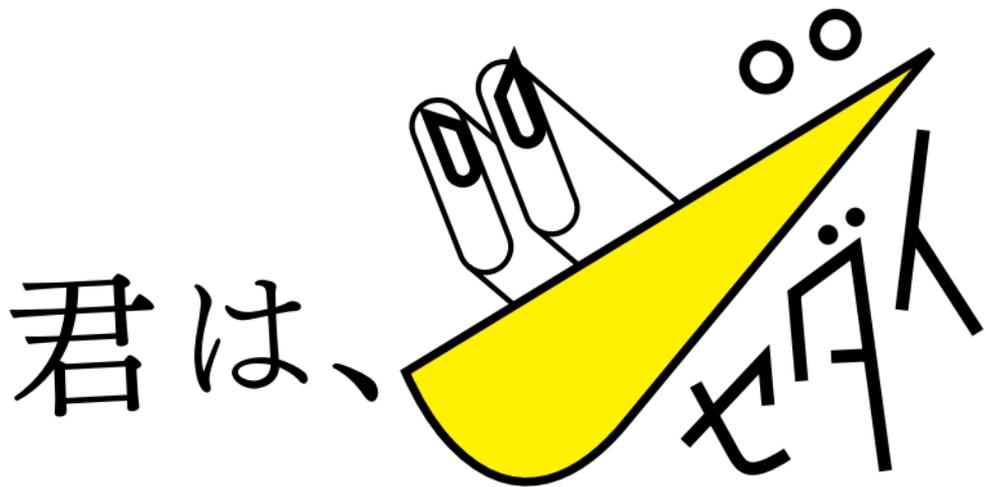
そこは、多くの国籍の人たちが集まる賑やかな街だった。その中で、パク・セロイは自由な精神を取り戻していく。

再び希望に燃えた彼は、意気投合した仲間たちと大きな夢に向かって走り出した。何よりも、パク・セロイは現実を変えていくパワーを持っていた。

そんな彼が標的にしたチャン・デヒ会長。2人の激突が『梨泰院クラス』の中心ストーリーになっていった。そして、パク・セロイは人生のすべてをかけて巨大な敵に挑んでいく。

混沌こんとんとした現代社会。待ち望まれるヒーローというのは、パク・セロイのように、損得を抜きにして自分の大望に向かって突き進んでいく男なのである。

こんなパク・セロイに、勇気をもらった人が多いことだろう。だからこそ、『梨泰院クラ



君は、

ジセダイ

何と闘うか？

<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!